下勝田・勝間田の池・上勝田・馬橋&墨（南酒々井町）地区探索

（令和4年5月）

佐倉路地裏探検隊

1．印旛郡　；古代～近代の群名

下総国にうち。下総台地の西部、印旛沼周辺の地域を示す。「和名抄」の下総国11郡の１つで、印播・印波とも書いた。近世まで印幡とも書いた

【古代】

「旧事本紀」に「印波国造」が見える事から、大化前代には印波国の領域であったと考えられる。印旛沼北東部の**龍角寺古墳群と公津古墳群は印波国造一族の墓域**とされている。郡域に**丈部氏**がおり、天平10年（738）駿河国正税帳に従者2人を連れて上京する。「**下総国印波郡采女丈部直広成**」が見

え、天平勝宝7年（755）、**防人**として筑紫に赴いた**印旛郡丈部直大麻呂**が「**潮船の舳越そ白波にはしくも負わせ賜ほか思はへなくに**」の歌を詠んでいる(万葉集巻20　切り方と読み方分かりません？）天応元年（781）正月には**印幡郡大領**(郡司）**丈部直牛養**が蝦夷征討の軍粮を進上して外従五位下に叙せられた。貞観6年（864）11月、水旱の被害を受けた当郡ほか下総国4郡百姓の調庸2年分が免除された。「和名抄」によれば、**八代・印播・言美・三宅・長隈・鳴矢・吉高・船穂・日理・村神・余戸の11郡が所属**する。**「延喜式」神名帳には麻賀多神社**。奈**良期までは上総国府から常陸国に向かう東海道として郡内に鳥取駅が置かれた**が、駅名変更の為平安初期の延暦24年（805）10月廃止。古代の当郡は近世以降とは異なり、現在の四街道

【中世】

平安末期、当郡域は分割・再編されて中世的な郡郷が形成された。郡域は印旛沼を境としてほぼ二分され、北西部が印西条(和名抄の三宅・船穂・吉高郷

など）、南東部が**印東条**（和名抄の八代・印旛・日理・鳴矢・長熊・余戸などの郷）と称され、初期には国衙領であったが、後に庄園化した。「和名妙」言美郷にあたる郡域北部は、中世には埴生郡が分割して成立した**埴生西条**に編入され、印東庄の南方、千葉郡との郡界には**白井荘**が形成された。当

郡域は千葉氏の本領**千葉荘**に隣接し、中世を通じて千葉氏の勢力下にあった。

印東荘は平安末期には上総氏の所領で、一族の上総常茂らは印東氏を称したが、寿永2年（1183）上総介広常が源頼朝に誅殺されると、**千葉一族の所領**となった。

印西荘は**鎌倉期には北条一門金沢氏が地頭**であったが、南北朝の動乱を経て、やがて**千葉惣領家の勢力下**に入った。

臼井荘には臼井城に拠る千葉一族臼井氏が蟠踞（ばんきょ）した。**室町末期、康生元年（1455)、馬加康胤が千葉介胤直を滅ぼし自ら千葉惣領家を継い**だ後、**本拠を当郡域に移し、臼井城等を経て文明年間（1469～1486）からは佐倉（本佐倉城）に居城**した。

戦国末期の永禄年間（1558～1569）には**千葉一族の原氏が、千葉郡域の小弓から臼井城に移住して惣領家を凌ぐ勢力を有し**た。この間、千葉一族は安房から上総に進出した里見氏や常陸の結城氏などの圧力を受け、小田原北条氏と結んで勢力を維持したが、しばしば里見氏や里見氏家臣正木氏

【近世】

江戸初期に当郡域は再編され、江戸前期千葉郡北部の「和名抄」山梨郷・物部郷にあたる地域が当郷に入るなど郡域は変動し、**元禄年間（1688～1703）迄に確定**した。**天正18年（1590）徳川家康は臼井に3万石で酒井家次、岩富に1万石で北条氏勝、佐倉に1万石で三浦善次(文禄元年＝1592　4万石で武田信吉、慶長7年=1602　4万石　松平忠輝）を配し**た。これらは後に**臼井藩・岩富藩・佐倉藩**となるが、**臼井藩は慶長9年（1604）上総高崎へ、岩戸藩は慶長18年（1613）下野富田へ移封され廃藩**。

村数・石高は「元禄郷帳」222ヶ村・6万1568石余、「天保郷帳」260ヶ村・7万37石余、「旧高旧領」271ヶ村・７万113石余。**郡内の諸藩領は「寛文朱印留」では佐倉藩**98ヶ村・1万9549石余、**高岡藩**3ヶ村/500石余、**下野国皆川藩**3ヶ村・453石余、**「旧高旧領」では佐倉藩**148ヶ村・4万3479石余、**高岡藩**　1ヶ村・337石余、**山城淀藩**17ヶ村　6565石余、**遠江浜松藩**38ヶ村・7044石余。印旛郡はこうした諸藩領のほか幕府領・浜松領が混在し、その占める割合が高い。

明暦年間（1655～1657）に利根川沿いの大瀬野と呼ばれる停湿地な開発が始り、元禄年間（1688～1703）迄に**布鎌新田**24ヶ村が成立。更に印旛沼は享保・天明・天保年間に干拓による新田開発に着手されたが失敗。郡内には埴生・香取・武射・山辺の各郡に跨る佐倉牧があり、酒々井町の野馬会所が置かれた。天明3年（1783）佐倉藩領内の農民が不納分年貢米の石代納と夫食拝借を要求して一揆を起こし、佐倉城下へ押し寄せたが、金10両につき米27俵替金納で沈静化。廃藩置県を経て明治4年11月印旛県、明治6年には千葉県に所属

【近代】

郡区町村編成法により成立(明治11年=1878) 。郡役所を佐倉新町に設置。明治20年「地方区画行政便覧」では250ヶ村、同22年の市制町村制施行により佐倉町・内郷村・臼井町・志津村・根郷村・和田村・弥富村・公津村・阿蘇村・千代田村・旭村・酒々井町・八街村・川上村・冨里村・宗像村・六合村・白井村・谷清村・永治村・木下村・大杜村・船穂村・本郷村・埜原村・布鎌村の**4町22ヶ村**を編成。明治24年の郡域は東西6里20町・南北7里。**明治30年**郡制施行により、下埴生郡遠山村・久住村・成田町・豊住村・安食村・中郷村・八生村の2町5ヶ村を編入し、**6町27ヶ村**となる。大正2年大埜村が大森村に変名。谷清村が永治村に合併、本郷村と埜原村が合併し本埜村となる。大正８年八街村が八街町に。昭和12年内郷村が佐倉町に合併。昭和15年千代田村が千代田町に。昭和29年に佐倉町・臼井村・志津村・根郷村・和田村・弥富村が佐倉市に。成田町・八生村・久住村・中郷村・遠山村・公津村・と豊住村の一部が成田市に。木下町・大森町・船穂村と永治村の一部が印西町に。同時に、永治村の残りが白井村に、豊住村の残りが安食村と合併。昭和29年千葉郡阿蘇村を八千代町に編入。千葉郡川上村が八街町に合併。昭和30年千代田町と旭村の一部が四街道町に、宗像村と六合村が印旛村に、安食村と布鎌村が榮町に。同年旭村の一部が佐倉市に編入。昭和31年茨城県稲敷郡河内村の一部が榮町に編入。昭和39年白井村が白井町に。昭和56年四街町が四街道市に

２．印旛県

【近代】

明治4年11月3日～明治6年6月15日の県名。千葉県の前身の一つ。明治4年11月3日、佐倉・古河・関宿・結城・生実・曽我野・葛飾の７県が合併し印旛県が成立。下総国結城・猿島・葛飾・相馬・岡田・豊田・千葉・埴生・印旛の9郡内合わせて旧石高46万石余の地を管轄する。県庁は佐倉に設置する予定であったが、市民の便宜を考えて葛飾郡(浦安)徳願寺に設置。佐倉と関宿に支庁を置いた。明治5年1月29日県庁を旧葛飾県庁のあった葛飾郡加村(流山市旧加屋陣屋) に移転。旧小菅県知事の河瀬秀治が任命された。明治5年管内の小金・佐倉両牧の開墾事業により、開墾順にちなむ字名が村名になった。明治6年印旛県と木更津県を合併し新千葉県を設置。県知事も河瀬知事から木更津県令の柴原和に変る(明治6年6月7日)

３．和田村

【近代】　明治22年～昭和29年の印旛郡の自治体名。
印旛沼南部、高崎川流域の丘陵地上に位置する。直弥・八木・高崎・宮本・米戸・寒風・上別所・天辺・**上勝田**・**下勝田**・長熊・上代・高岡・瓜坪新田・坪山新田の15村と佐野狐台町字野狐台町飛地のうち、大蛇町飛地字野狐台が合併して成立。旧村名を継承し15大字を編成。役場は初め直弥宝金剛寺に設置。明治43年寒風に移転。村名はかって和田野という原野があったという事で命名。明治24年の戸数412・人口2408馬206　　明治42年　戸数445・人口2801。明治30年総武鉄道・成田鉄道それぞれ開通。同41年下勝田・上勝田・寒風の3尋常小学校が合併して和田尋常小学校とんり、同43年高等科を併設。農業が中心で米、麦、豆類等生産。養蚕も盛んでった。昭和29年佐倉市の一部となる

４．下勝田；

印旛沼南部、南部川流域の丘陵地上に位置する

【近世】下勝田村；江戸期～明治22年年の村名

下総国印旛郡のうち。上勝田・下勝田両村は元勝田村一村であったが、上勝田が大宮神社、下勝田が天満神社を祀っていたが反目して分村したとも謂われている。佐倉藩領。村高は「元禄郷帳」389石余、「天保郷帳」「旧高旧領」ともに392石余。安政4年（1857）「領分村高帳」によれば小物成として夫役永896文、茶園代永101文、山銭鐚（びた）５貫293文、野銭永353文。酒々井町の助郷村。明治6年千葉県に所属。神社は天満神社他、寺院は西光寺。明治20年下勝田尋常小学校開校。明治22年和田村の大字となる

【近代】下勝田；明治22年～現在の大字名。はじめ和田村、昭和29年からは佐倉市の大字名

明治24年の戸数40・人口237・馬18。昭和49年の世帯数69・人口272

4．上勝田；印旛沼南部、南部川流域の丘陵地上に位置する。上勝田城址があり三方に空濠、東と南に二重上塁がある

【近世】上勝田村；江戸期～明治22年年の村名

下総国印旛郡のうち。上勝田・下勝田両村は元勝田村一村であったが、上勝田が大宮神社、下勝田が天満神社を祀っていたが反目して分村したとも謂われている。佐倉藩領。「旧高旧領」では幕府領も見える。村高は「元禄郷帳」438校余「天保郷帳」「旧高旧領」ともに449石余。江戸初期に東南部の原野を出作して開発、のち寛永～慶安年間頃に大関新田・榎戸新田(共に現八街市）として当村から分村。しかし江戸期を通じて両新田と当村との間に子村・親村の関係が存続。この3ヶ村入会地富山(元八街市）60町４反余があり、**同地はのち明治4年佐倉藩旧士族が政府から払下げを受け開墾して茶園**となり、同時に当村の飛び地として把握された。酒々井町の助郷村。安政4年「領分村高帳」によれば、小物成として夫役永1貫295文・栗代永190文・林下刈り金1両1分・山銭鐚５貫117文。明治6年千葉県に所属。同20年上勝田尋常小学校開校。神社は大宮神社等、寺院は妙勝寺。明治22年戸山新田部分は八街市大関新田の一部となり、他は和田村の大字となる

【近代】明治22年～現在の大字名

はじめ和田村、昭和29年から佐倉市の大字。明治24年の戸数60・人口353・馬２５．昭和49年の世帯数109・人口483

下勝田　殿台バス停付近の馬頭観音

権現神社　（祀られているのは？）

５．酒々井町；

印旛沼の中央の丘陵地に位置する。現在は印旛沼を干拓した平坦地が北西部に広がる。酒々井は中世末期、千葉氏の居城本佐倉城の城下町で臣族の居館が多くあった

【近世】酒々井村；江戸期～明治9年の村名。酒々井町ともいった。下総印旛郡の内。佐倉藩領。

「元禄郷帳」「天保郷帳」「旧高旧領」とも770石余。成田街道の宿場として町場が形成され**新宿・上宿・中宿・下宿・横町の５町からなり**、中心は中宿であった。天正19年（1591）徳川家康いよって取立てられた町であり、この時**酒々井宿繁栄の為に新堀港を開き**ました(印旛郡誌）。**新堀港は印旛沼から利根川を通じ、江戸、銚子方面との物資輸送の要所**であった。佐倉牧は千葉・印旛・山武・香取の4郡にまたがり、野付村は210村に及び、管理の中心は酒々井であった。中宿の牧士頭島田家の屋敷の一部に、佐倉牧の御払場と野馬開所が置かれた。

享保8年（1723）酒々井村明細帳によれば、村方田畑辻687石余、町方82石余(計669石）。村方反別田56町2反余・畑22町５反余・屋敷２町３反余(計81町1反）、町方反別畑５町２反余・屋敷９町4反余(計14町６反）。村方家数16、町方家数130、御林は所城・桜山・いつくしまの３ヶ所で山銭として京１貫668文を納入、なお村高770石余のうち、220石余は人馬役・宿村の為御免。神社は八坂神社・麻賀多神社・朝日神社等。寺院は勝蔵院・東光寺。江戸末期青樹堂石井平兵衛の寺子屋があった。明治6年千葉県に所属。明治10年勝蔵院境内内に酒々井小学校が開設。明治19年合併して酒々井町となる(町村合併史)

【近代】酒々井町；明治19～22年の町名。明治22年酒々井町の大字

【近代】酒々井町；明治22年～現在

酒々井町・本佐倉町・本佐倉村・馬橋村・墨村・飯積村・尾上村・下台村・中川村・上岩橋村・柏木村・下岩橋村・伊篠村・伊篠新田・篠山新田の16ヶ町村が合併し成立。旧村長名を継続した15大字と上本佐倉(旧本佐倉町）で16大字で編成。合併時の戸数720・人口3,644、**馬232**、船132。酒々井・上本佐倉・中川・上岩橋の旧成田街道筋は半農半商工。その他は純農村。明治30年成田鉄道佐倉～佐原間開通、酒々井駅設置。**大正3年南酒々井駅が馬橋地区に開設**。**大正15年京成電鉄開通、京成酒々井駅(中川）、宗吾参堂(下岩橋）開設**。昭和26年長永国保診療所開設、同43年町営水道給水開始。同46年東関道が酒々井町を貫通し、酒々井サービスエリアが設置される。同47年公共下水道事業着手、同53年成田新国際空港開港に伴う受託整備の宅地化が進む（東酒々井・中央台）11町16大字となる。世帯数・人口は昭和25年　1164、6277、同45年　1464、6259、同50年　2141、8463

６．酒々井；明治22年～現在迄の酒々井町の大字

地内に町役場が設置された。明治24年の戸数189・人口977・馬40・舟45。同30年成田鉄道酒々井駅設置により、旧街道沿いの宿場町も変容。同41年字内方に酒々井尋常高等小学校開設。昭和22年酒々井中学校が同所に開校、同53年尾上地区に移転

７．馬橋；

鹿島川支流高崎川左岸の丘陵地上に位置する

【近世】馬橋村；江戸期～明治22年の村名。下総国印旛郡のうち。佐倉藩領。
村高は「元禄郷帳」214石余、「天保郷村」「旧高旧領」ともに220石余。慶長9年（1604）印東庄馬橋之郷水帳によれば、反別田18町１反余・屋敷3反余・屋敷数は12筆で名請け人は42人。成田街道酒々井宿の助郷村。酒々井の野馬込場へ野馬の喰草を差し出す賦役があった。神社は香取神社、寺院は相持院。明治6年千葉県に属す。寧時22年酒々井町の大字に

【近代】馬橋；明治22年～現在の酒々井町の大字名

明治24年の戸数36・人口161・馬21。大正3年地内に南酒々井駅設置。県内最大の蔵元甲子正宗の飯沼本家がある。昭和55年東電北宋変電所が設置される

8. 墨；

「須見」とも書いた。鹿島川支流高崎川を挟んだ左右両岸の丘陵地上に位置する。**りゅうがい城址**が残る

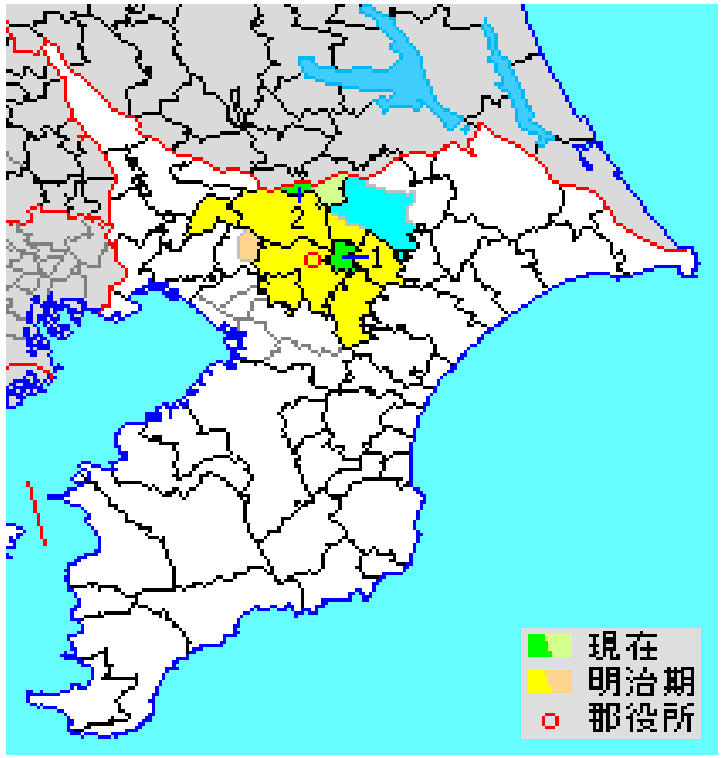
【近世】墨村；江戸期～明治22年の村名。下総国印旛郡のうち。佐倉藩領。

村高は「元禄郷帳」445石余、「天保郷帳」「旧高旧領」ともに481石余。当村名主は隣村古沢村の名主をも兼務した。成田街道酒々井宿の助郷村。佐倉牧捕馬の際には、野馬喰草の納入が義務ずけられている。安政5年（1858）「利根川図誌」に狐捕りの名人として記載の稲荷（とうか）藤兵衛は当村出身。神社は六所神社、寺院は東伝院。明治6年千葉県に所属。同年古沢村を合併。同年東伝院を仮降車として墨学校が開校、同15年字馬場に校舎を新築移転。同18年尾上学校と合併し字小盛田に移転。明治22年酒々井町の大字となる

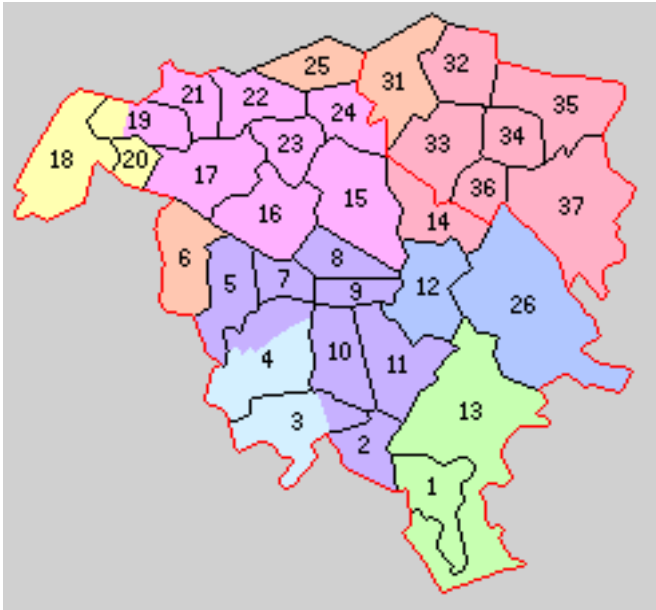
【近代】墨；明治22年～現在の酒々井町の大字名。

明治24年の戸数79・人口437・馬21

※参考文献；「角川地名大辞典　千葉県」による

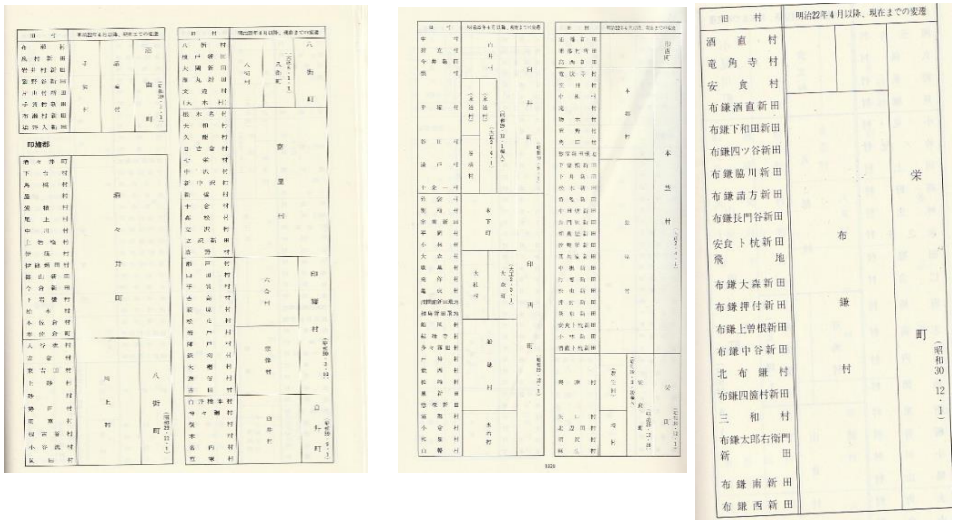


印旛郡



1. 川上村 2. 弥富村 3. 旭村 4. 千代田村 5. 志津村 6. 阿蘇村 7. 臼井町 8. 内郷村 9. 佐倉町 10. 根郷村 11. 和田村 12. 酒々井町 13. 八街村 14. 公津村 15. 六合村 16. 宗像村 17. 船穂村 18. 白井村 19. 谷清村 20. 永治村 21. 大杜村 22. 木下町 23. 本郷村 24. 埜原村 25. 布鎌村 26. 富里村 31. 安食町 32. 豊住村 33. 八生村 34. 中郷村 35. 久住村 36. 成田町 37. 遠山村（紫：佐倉市 赤：成田市 桃：印西市 下橙：八千代市 黄：白井市 緑：八街市 水色：四街道市 上橙：栄町 青：合併なし-酒々井町，富里市）

9. 印旛郡全図（大正時代の印旛郡）、上勝田・下勝田の小字マップと酒々井町の歴史



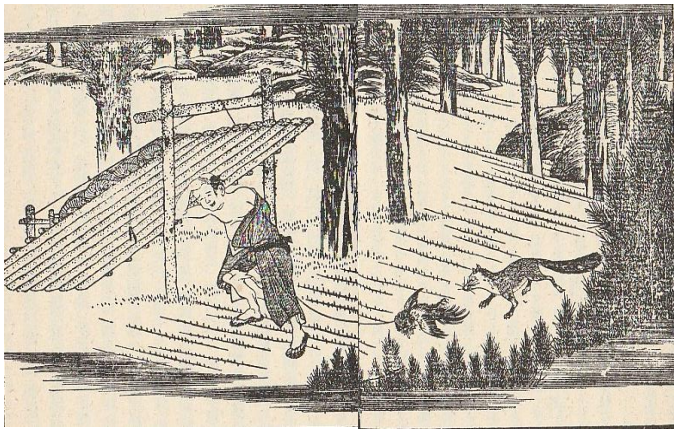
酒々井町の町村変遷(明治22年～現在)

和田地区全図

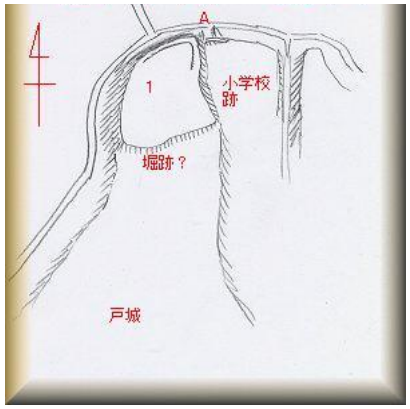
10. 酒々井町の大字と一部小字名

1. 下台（シモダイ）；
2. 酒々井（シスイ）；
3. 上本佐倉（カミモトサクラ）；
4. 本佐倉（モトザクラ）；
5. 馬橋（ウマバシ）；台畑（ダイバタケ）、出戸（デド）、場場（ババ）、西口（ニシグチ）、砂押（スナオシ）、鷺田（サギダ）、仙元谷津（センゲンヤツ）、坂台（サカダイ）、鷲尾余（ワセビヨウ）、新堤（シンヅツミ）、題目塚（ダイモクヅカ）、向原（ムコウバラ）、森田谷津（モリダヤツ）、池之尻（イケノシリ）、池之台（イケノダイ）、勝田台（カツタダイ）、平台（ヒラダイ）、中之尾余（ナカノビヨウ）、八木台（ヤギダイ）、向台（ムコウダイ）
6. 墨（スミ）；小盛田（コモツタ）、石井（イシイ）、八石（ハチコク）、大坂（ダイサガ）、谷上り（ヤアガ）、下谷上り（シモヤアガ）、境田（サカダ）、関間（セキマ）、鼬川（イタヂワ）、高野台下（コウヤダイシタ）、関間（セキマ）、八石下（ハチコクシタ）、高田（タカダ）、高野台（コウヤダイ）、関上（セキガミ）、山之下（ヤマノシタ）、居下（イイジタ）、大物井（オオモノイ）、西之崎（ニシノサキ）、大広（ダイビロ）、大広台、寺之台、梶橋、横谷津、笠原、氷作、仲田、端丁田（ハッチョダ）、山入（ヤマイリ）、出戸（デド）、台（ダイ）、小谷津（コヤツ）、花之作（ハナノサク）、浅間脇（センゲンワキ）、池袋（イケブクロ）、鷲山（ワシヤマ）、平台（ヒラダイ）、原山（ハラヤマ）、
7. 尾上（オガミ）；
8. 飯積（イイヅミ）；
9. 中川（ナカガワ）；
10. 上岩橋（カミイワハシ）；
11. 柏木（カシワギ）；
12. 下岩橋（シモイワハシ）；
13. 伊篠（イシノ）；
14. 伊篠新田（イシノシンデン）；
15. 篠山新田（シノヤマシンデン）
16. 今倉新田（イマクラシンデン）
17. 印旛沼新田（インバヌマシンデン）
18. 東酒々井（ヒガシスイ）
19. 中央台（チュウオウダイ）；

11. 参考文献



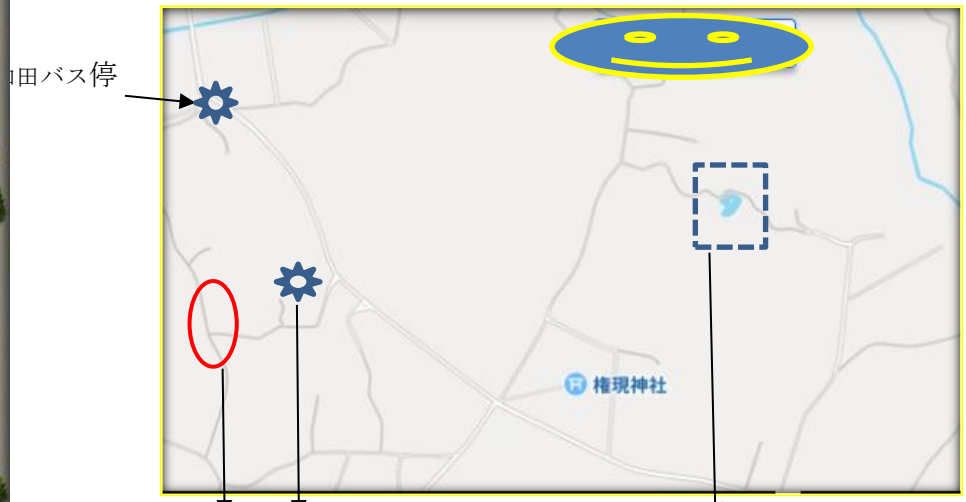
「利根川図誌」4巻　「狐捕」



墨のりゅうがい城跡
（りゅうがいとは要害の意。各地にあり

上志津原の桜並木

殿台城付近地図



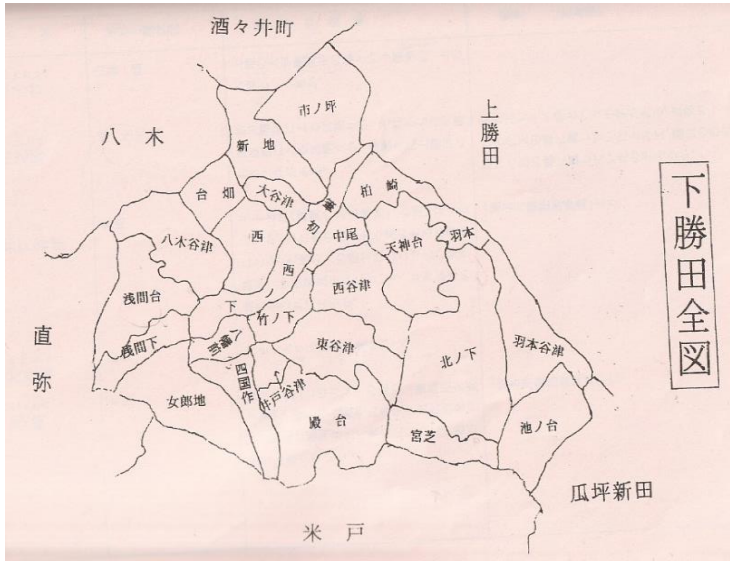
12. 上勝田・下勝田(佐倉市) と馬橋・墨(酒々井町) の中世城郭・屋敷遺跡跡

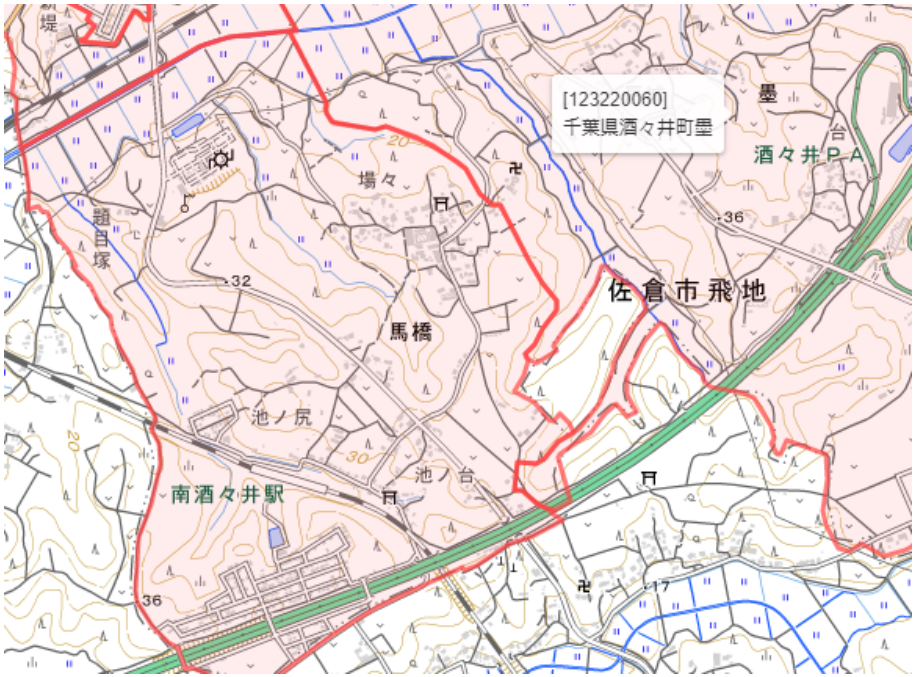
上勝田・下勝田（佐倉市）と馬橋・墨（酒々井町）の中世城郭・屋敷跡等

No	市町村名	No	場所	城址名	時期	残跡	備考
1	佐倉市	1	上勝田	上勝田城	中世	土塁、空堀	単郭構造
		2	下勝田	殿台城	中世	土塁、空堀	
		1	墨	りゅうがい	中世		
		2	城の内	本佐倉城			

		2	城の内	本佐倉城			
		3	根古谷	向根古谷城			
		4	伊篠	粟飯原館			八街市の根古谷城の城主で千葉氏重臣の粟飯原（あいはら）氏が本佐倉城主が本佐倉城出仕時の居館では？
		5	飯積	飯積館			
		6	新堀	厳島館	郭・曲輪		
		7	下岩橋	岩橋城	土塁・虎口・3曲輪・二重堀		本佐倉城が出来上がる前の千葉一族（馬加康胤の庶子輔胤）の居館の一つ？
		8	酒々井	右京館	土塁・腰曲輪		本佐倉城の出城？
		9	酒々井	肥前屋敷			本佐倉城の千葉氏の家臣の館？肥前？
		10	上岩橋	大崎台城			岩橋城と関係が？
2	酒々井町	11	上岩橋	上岩橋城	戦国期	土塁・櫓台・腰曲輪	館跡？
		12	本佐倉	北大堀御殿山館		土塁・空堀・腰曲輪	堀跡幅・深さとも10m程。徳川家康5男武田信吉の館跡と謂れている
		13	本佐倉	経胤寺館	社殿は江戸初期のもの		元千葉氏の菩提寺があった
		14	墨	島館			居館跡？
		15	下台	下台館			無断登録。何もなし？
		16	七栄	新囲土塁	二重土塁・薬研堀		
		17	墨	古沢館	土塁・空堀・一辺30m程		地元では代官屋敷と呼んでいる
		18	北押出	長勝寺脇館	堀・土塁		非イサナ館？
		19	北押出	北押出遺跡	15C後半から16C後半		本佐倉城の存続年代と一致。本佐倉城造営にともなった館。後に本佐倉城の総構えの一角か？
		20	本佐倉	妙胤寺館			100m程の妙胤寺背後。居館
		21	本佐倉	弥兵屋敷城		土塁・空堀・虎口。帯曲輪	城郭遺構

13. 上勝田・下勝田小字地図&酒々井町馬橋・墨地区





墨香取神社の獅子舞

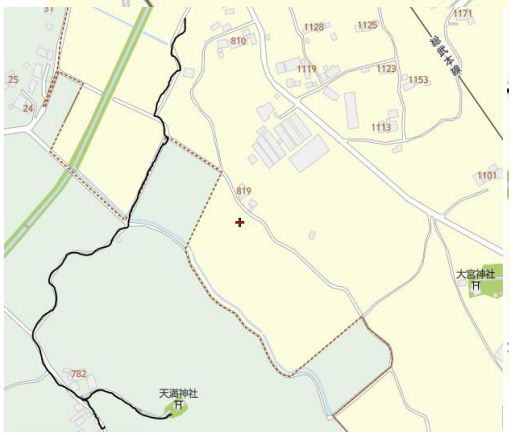
下勝田の獅子舞

14. 散策マップ 1

南酒々井～飯沼本家散策マップ全図Ⅰ

マップ１

マップ３



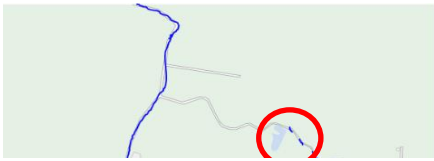
マップ４

南酒々井～飯沼本家散策マップ全図Ⅱ

マップ５　勝間田の池

下勝田　権現神社

14. 散策マップ　２

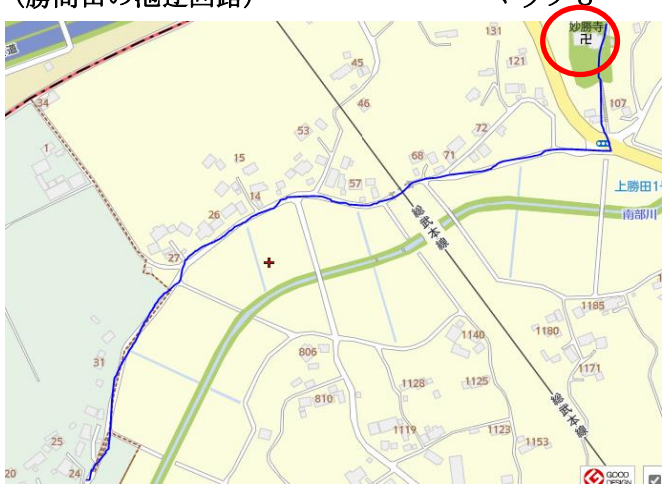


マップ６（勝間田の池迂回路）

マップ７(勝間田の池迂回路)

マップ８

マップ９



マップ10

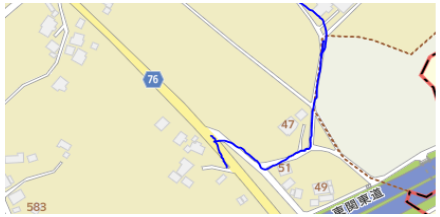
利休梅

マップ11(上勝田妙勝寺迄)

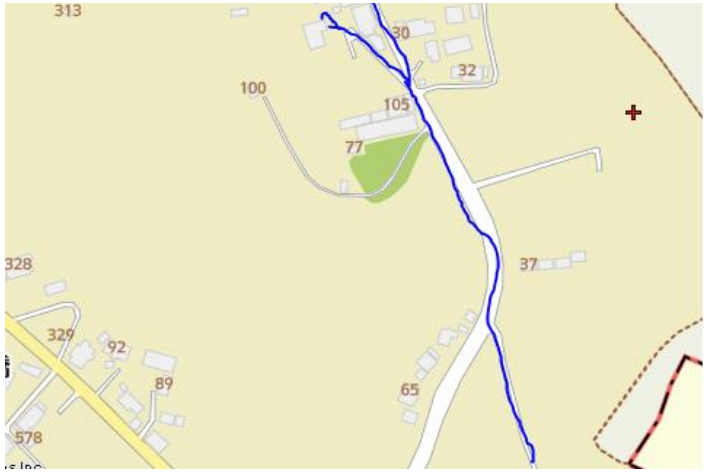
マップ12

モクレン

14. 散策マップ　３

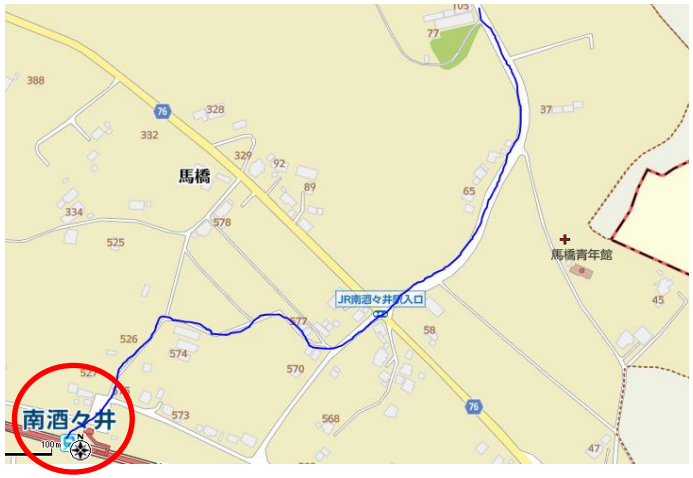


マップ13



マップ14

マップ15　（酒々井町　馬橋・墨地区）



マップ16　（南酒々井駅迄）

上勝田　妙勝寺　盆綱

下勝田　天満宮　獅子舞頭

地区スポット説明

1	2	3	4
南酒々井駅	坂(仮称 南酒々井坂)	坂(仮称 馬橋坂(マバシザカ))	JR東歴史的建造物 上勝田第1号アーチ橋
大正3年9月10日開業(1914)昭和49年3月15日無人化。昭和55年現駅舎完成です。1日乗降客は現在208人程。平成2年145人。最大乗降客は平成7年233人です。元々少人数が乗降客も少なく現在は減少気味。駅舎は何故か貨物車に」見えて？経費の問題でしょうが、もう少し奇抜な駅舎が出来なかったのか？駅前にはお店もタクシーも並んでいません。その分周囲には民家が少ないです	駅前からまっすぐ坂を上り、途中二股に分かれますが、今日は右折すると南酒々井交差点近くにでます。農道を歩いているようです。車は、やっと小型車が通れるか程度です。約11度、55m程	坂登録No.142 令和3年度宮本・直弥・和田地区探索にショートカットして実際は探索出来ませんでした。約10度、450m程。	 明治30年開業(南酒々井～榎戸(えのと)。「アーチ部は煉瓦4枚牧」とありますが、入口に上部煉瓦が4層になっているのが分かります。天部(天井)は軒蛇腹とは奥行のじゃばら模様という専門語。確かに煉瓦が互い違いに並べられています。歴史的建造物に指定されています。これとは違い、榎戸駅寄りに水路用のアーチがあります。2号アーチでこれも歴史的構造物です
5	6	7	8

下向橋（ゲコウ　バシ）

げこう橋。変った名前です。小字名ではありません。辺田道から左側の台地下の辺田道に行く途中の南部川支流に架かる橋です。水田の真中に流れる川で、市内にでよく見かける風景です。昭和52竣工です。先の台地上は上勝田集落です

南部川流域付近

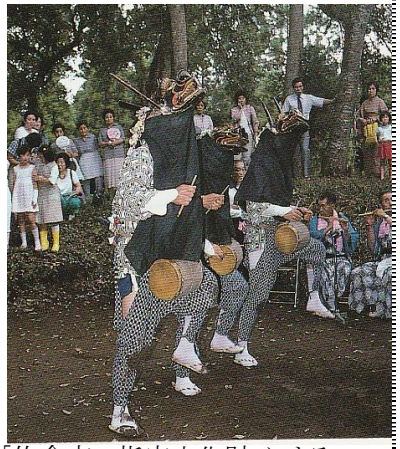
南部川は第3工業団地を源流、又八街市中央部の榎戸谷津を源流とする勝田川とが、高崎付近で合流(南部川が勝田川に流入)やがて鹿島川経由で印旛沼へ。南部川は延長3.1km程。1級水系利根川の準用河川です

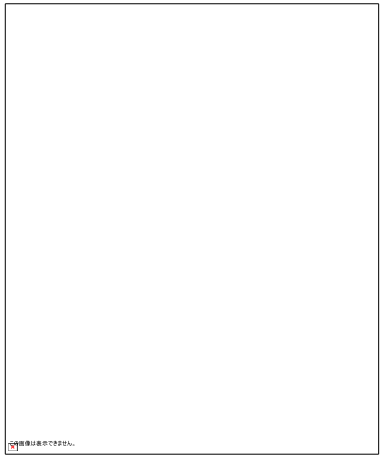
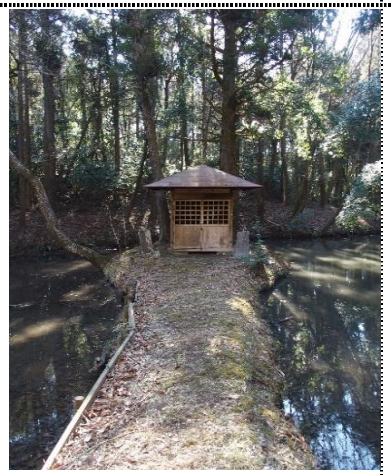
天満神社1

下勝田天満宮で獅子舞で有名な神社です。天満宮の主祭神は菅原道真です。一般的には学問の神様とも謂われています。日本の3代天満宮あ、北野天満宮、大宰府天満宮と防府天満宮（ほうふ）です。右大臣道真が左大臣の藤原時平の諫言で大宰府に流され亡くなりましたが、以降教徒では雷害が頻繁となり多くの人が亡くなった原因は道真だという事で、天満宮を祀る事で雷害を防ごうとしました。各地に天満宮を祭ましたが、多くは学問の神として祀られています。辺田道から階段を上り更に林の中を抜けると鳥居が見られ立派な社屋が見られます

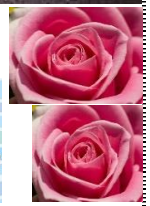
天満神社2

社殿の前にはj広場があり、狛犬でなく牛が左右に控えています。この広場の前で7月に獅子舞が奉納されます

9	10	11	12
天満神社の獅子舞	世直(ヨナオリ)神社	辺田道	坂(仮称　北ノ下坂)
 「佐倉市の指定文化財」による			
五穀豊穣・家内安全・雨乞祈願。関東に多い三匹獅子舞です。演目は神樂舞・幣束舞・橋渡の3つ。それぞれ「女獅子の舞」「中獅子の舞」「雄獅子の舞」からなっています。その他16人と太夫による舞(弥勒踊り)や、かって獅子舞を行った人による猿の面を被った踊りもあります。見学者は弥勒踊りに使用した花万灯の花を魔除け・笑福の為に持ち帰ります 	よなおりと読みます。福井県、島根県、福島県等で広く祀られています。天満宮の境内の一角に世直神社と刻まれた石碑を発見。明治35年8月3日/世直神社　250年記念/下勝田氏子　と刻字。明治35年から250年前なら1652年に何があったのでしょうか？福井県では幕末の福井藩士鈴木秀全主膳を祀っています。幕末の寺町奉行で善政を讃えて農民が祠を作って祀ったのがはじめです。この碑は誰を祀ろうとしているのでしょうか？	 	約12度、300m程です。辺田道から勝間田ノ池迄台地を上る坂と平地(畑地)そして2度程直角の道を雪、最後は勝間田の池に下る坂です。その為最初の上り坂を北ノ下坂、次の勝間田の池に下る坂を仮称　勝間田の池坂と2分割致します

13	14	15	16
坂（仮称　勝間田の池坂）	勝間田の池1	勝間田の池2	勝間田の池3
			
勝間田の池への入口から池まで約150m、10度程です。北ノ坂を上り平地の畑の中を2回程T路路を曲がり勝間田の池坂にはいります。少し高台の畑地と山林との間を下る坂です	元元は、V字型の窪地で畑地への散水用池でしちた。西行法師がこの辺りを訪問した事でこの池も一躍有名に。このままUターンでは面白くないので大きく迂回してみましょう 厳島神社		
n			

17	18	19	20
勝間田の池4	道祖神	蔵1	蔵2
	この画像は表示できません。	この画像は表示できません。	この画像は表示できません。
池の中央の厳島神社の祠の前・横に2基の句碑があります。左側の歌碑の正面には、師がこの地を訪問した時に詠んだ歌碑 みずなしと聞きてふりにし勝間田の/池あら たむるさみだれのころ (右面) 為相卿/尋来てかつみるまゝに勝間 田の/はなの蔭にぞ淋しかりけり (左面) 寂連法師/勝間田の池のこゝろは空 しくて/古堀籾づも名のみありけり	辺田道を歩いていてふと左側を見ると、竹林を切り開いた嶽の切株の中に石の祠を発見。刻字とにらめっこしましたが最後の「神」だけは判読。稲荷か道祖か等区別できませんでしたが、」総合的に判断し道祖神の祠としました この画像は表示できません。	辺田道を更に進むと、2棟の管理の行き届いて蔵をみつけました。敷地も隣どうしか？長屋門もないので建造持は比較的新しいのではないでしょうか この画像は表示できません。	
			この画像は表示できません。

21	22	23	24
妙勝寺	東伝院	香取神社	獅子舞
画像は表示できません。	この画像は表示できません。		
佐倉市上勝田の寺院です。寂れた寺院ですが、毎年8月13日のお盆の日には上勝田の盆綱行事として市の指定文化財です。盆綱作りは、8月7日に始まり太さ15cm、,長さ6m,程の龍を作ります。7～13日迄毎日川に持って行き盆綱に水を書けます。13日夕方から祭りがはじまります。上勝田には墓地が2ケ所あり、子供達は2組に分かれ盆綱を持って墓地に入り、お声掛けをした後に、村の各戸を回り村の家に佛様を送り」届けます。最後は妙勝寺境内で龍がちぎれる迄廻って、南部川にちぎれた龍を流します。子供達が龍に乗せてくるのは無縁仏で不運な仏様rすが、この仏様を家々に送ってお盆供養えお五歩にしてあげる行事です	向墨地区にあり、曹洞宗、ご本尊は釈迦に仏です。寺伝では文明10年(1469)19代千葉介祐胤の創建。その後長く無住。成田氏台方の超林寺5世松岩周鶴和尚開山となって再建。同寺の末寺となった。佐倉付近での曹洞宗の寺院は戦国期の本佐倉城時代です。その内尤もf狂いのは超林寺と東伝院です。超林寺も同じく文明10年、輔胤開基です。開山は常陸大雄院五世貴田周裔和尚開山。境内には東伝院創建者(千葉介輔胤の意？)の供養塔の下総板碑があります。造立延不明。阿弥陀、観音、勢至菩薩の種子の3つの梵字あり。徳富蘇峰の大きな詩碑があります。不遇風雲会　悠然臥草盧　千秋報国志　著作一遍書　修史偶成蘇峰正敬　裏面に建立協力者65名お名前	馬橋の鎮守で同地区の台畑にある。由緒不明。才神は経津主命（ふつぬしのみこと）・木花咲耶姫命・天日鷲命（あめのひわしんもかみ）です。江戸時代の馬橋村絵図面では、この地に天神社ああり、香取神社は鷺尾余（わせ尾余）に在りました。江戸末期～明治初期にこの地にうつされたのでしょう。馬橋の獅子舞は鎮守の香取神社で舞われています	毎年7月15日鎮守・お寺・口調宅の3箇所で五穀豊穣・家内安全・悪疫退散を祈願して舞われています。長く中断していましたが、昭和43年復活。7月15日夕方から鎮守の香取神社で舞われています。大獅子・中獅子・女獅子・猿獅子とで構成。獅子舞は芝獅子・幣束獅子・猿獅子・剣の舞の4演目で、鎮守の香取神社・区長宅・お寺（相持院）・飯沼本家でも舞いました。舞の形式も墨地区と馬橋地区の獅子舞おも交通店があります。岩橋の獅子舞とは全く異なります
	画像は表示できません。		
25	26	27	掛番

相持院	甲子(きのえね)正宗酒醸 飯沼本店	南酒々井駅	【上勝田の盆綱】
	この画像は表示できません。		
真言宗豊山派　本尊は大日如来。開基・開山は不明。東光寺の末寺。慶長9年(1604)mの検地帳には寺名は記載されています。墨地区の寺院である事は間違いありません	元禄年間(1688～1704)に酒造を始め、現在の甲子(きのえね)正宗を生み出しました。飯沼家自身は新潟出身。曲屋自身も新潟県の旧清野邸を移築し店舗に改造。酒々井町にはこの甲子正宗、佐倉市は旭鶴、成田市には長命泉仁勇の2銘柄が地酒になります	駅前にロータリがあるだけで店舗もなく寂れた駅です。何故この地に駅ができたmのでしょうか？20年前から150～200人程で乗降者も変わらず逆に少し減少。近場に住宅開発計画もなし。佐倉市の東南地区の開発、。酒々井町の馬橋・墨地区の開発等将来性を考えたのでしょうか？	
	この画像は表示できません。	この画像は表示できません。